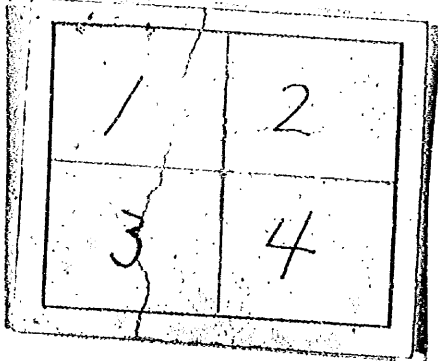


分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

第五軍第一三五師團 工兵第一三五聯隊

通稱號 真心二五二五九

郵便所名

全般概要

開戦時江頭、補給部中尉以下約六〇〇名七尾作戦隊として陣中編成中
聯隊長以下約四〇〇名三尾安にあり

八、九、聯隊長指揮のもとに東安を出発せる約一五〇名は、敵隊東安一林口一七、八を襲て南下、森林で戦い、約四七五〇の損害あり、捕虜四子附近で戦後を知り、真に南下

一〇、一五、吉林省柳河縣大泉鎮に於て聯隊本部に依り武裝解除

七尾作戦隊に七尾一社丹江一社河と移駐し、被河で戦す、損害約四〇七五〇

聯隊(長少尉連隊長)約一三〇名を捕獲し投擲するも途中分隊し、約二〇名は、九、一、嶺山で武裝解除され、作戦一四三大隊長(岩井大尉)に編入

武備隊化に依り、九、三、聯隊に移駐、一〇、九、聯隊の一隊を残り更に戦化に移駐、戦後に従事中
一、一、中甸、チベットにて約三〇〇名(戦隊を含む)の死亡者を生ず
其の喪、健康者は牡丹江、劉オオロフ附近に移駐せられたし、
捕虜者は「ソ」軍撤退後、八路軍に移管され二一、八、下旬より解回す

八、二二位古第六大隊 (長 大角中尉)

八、二八位古第三大隊 (長 中島中尉)

轉入 十九年以降
轉出 十九年以降

二〇、七一〇
第二師団守備隊
工兵隊
二〇、七一〇
第七七旅團
工兵隊

964名 (20.7.10編成)

別隊	聯隊本部	第一中隊	第二中隊	第三
隊長名 (内は先代を示す) 少佐 米村 義幸 副官 渡邊 正 少尉 渡邊 正	中尉 江頭 官崎	中尉 橋本 良助	代理 少尉 小山	
駐屯地 時 戰 時 平 時 戰 時	安 東	七 尾	右 同	右 同
戰鬥間の状況及損耗				
終戦後の人員變動				
作業大隊より入「ソ」迄の變動				
隊別計				
入「ソ」人員				
滿洲残留				
收 容 所 名				
收 容 所 名				

隊名

工兵第一三五聯隊

通稱號

眞心二五二五九

郵便所名

隊別	隊長名	人員	駐屯地	戦間状況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より入ッ迄の變動	隊別計	満洲残留	收容所名	所人	死亡	満洲より領計	状況不明者数
聯隊本部	(内は先代を示す) 隊長 米村 義幸 副官 渡邊 正 少尉 江頭 宮崎		安東						フオロシロフ第五 六四收容所				
第一中隊			七 星										
第二中隊	中尉 桶野 良助		右 同										
第三中隊	代理 少尉 小山		右 同										

一〇、一五、上野省海軍
次長等に於て、保衛部隊に依
り式發隊

七、製作部隊は七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、一百〇一、一百〇二、一百〇三、一百〇四、一百〇五、一百〇六、一百〇七、一百〇八、一百〇九、一百一〇、一百一〇名を標準し、復讐す
るも途中分隊し、約二〇名
は、九、一、飯山で試製隊
隊され、作業一四三大隊長
野井大尉)に編入

武備後撤化に致す、九、三
歩隊に移駐、一〇、九、九、
歩隊の一部を更に更に撤化に
移駐部隊に從事中
一、一、中野道子アムにて
約三〇〇名(歩隊を含む)
の死亡者を生ず
其の後、健康者は牡丹江經
路ヨロシロフ附近に移
駐せられたらしい
病死者は「ソ」軍搬送後、
八路軍に移駐され二一、八
下旬より隊解散す

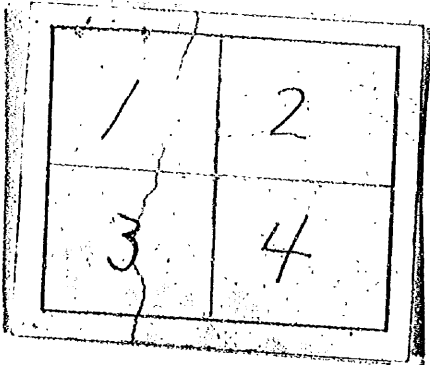
八、二二、拉古第六大隊
(長 大角中尉)
八、二八、拉古第三大隊
(長 中島中尉)
二、中 江頭中尉
二、中 桶野中尉
三、中 岡崎中尉
(編一三五番)
四、中 中敷中尉

964名 (20.7.10編成)

隊 小 村 器	隊 中 三 第	隊 中 二 第	隊 中 一 第
少尉 中山 稔信	代理 少尉 小山	中尉 桶野 良助	中尉 江頭 宮崎
	右 同	右 同	七 星

隊 小 材 器	隊 中 三 第	隊 中 二 第	隊 中 一 第
少尉 中山 政信	少代理 小山	中尉 福野 良助	中尉 江頭 宮崎
	右 同	右 同	星 七

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

第一二五師團通信隊

通稱 誠心一二五二六〇二二〇五七 郵便所名

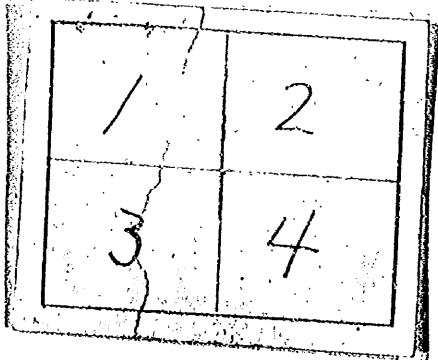
別	隊長名 (内は先代を示す) 大尉 伊藤虎之助 (少佐 近藤和喜太) 人事掛曹長 三澤吉五郎	隊員 時	駐屯地		戦闘間の状況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より 入ソ返の變動		隊別 計	入ソ人員	滿洲殘留	收容所名 バロフスク ギンスカヤ ズベストコトヤ	所人 死亡	滿洲 より 領 計	歸還人員 計	者 数	狀況不明	
			平 時	戰 時														
伊藤 進																		

○ 兵隊募集
 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百
 ○ 兵隊募集
 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百
 ○ 兵隊募集
 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

239名(20.7.10編成)

部	隊小(線有)第	隊小(線有)三第	隊小(線無)三第	隊小材器
本	(大) 第一師団司令部 (中) 第一師団司令部 (小) 第一師団司令部 三師団司令部		伊藤 進	

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

部隊名 輜重兵第一三五聯隊

通稱 眞心二五二六一(二二〇五八) 郵便所名

隊別	隊長名 (内は先代を示す)	人員		駐屯地	戦闘開始の状況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より入ソシ迄の變動	入ソシ人員	満洲残留	收容所		歸還人員	状況不明者数
		戦時	平時							收容所名	所入		
聯隊本部	少佐 築出 松夫 副官 田中 衛 (附) 少尉 照井又三郎 主少尉 高橋定夫 醫大尉 藤本一男 獸中尉 有働剛治												
第一隊(馬鞍)	中尉 岡崎 善海				一部は黒川少尉指揮のもとに仙洞附近戦場								
第二隊(馬鞍)	中尉 角南 武夫 小隊長 黒川 浩 少尉 黒川 浩				一部は黒川少尉指揮のもとに仙洞附近戦場 輸送中 九、二五冷山で武庫 中隊長は東安に於て第三次初年兵(終系) 教育擔任中(東安)に於て殆ど逃亡 約六〇名)								
第三隊(馬鞍)	中尉 萩原 善助												
第四隊(自動車)	中尉 大泉 敬三 (戦死)				戦死約一〇名以上 主力は九、四横道河子で武装解除								
中尉 福岡 國義					戦死一〇名以上								

<p>一、警備隊司令部(警備隊司令部) 二、警備隊司令部(警備隊司令部) 三、警備隊司令部(警備隊司令部) 四、警備隊司令部(警備隊司令部) 五、警備隊司令部(警備隊司令部)</p>	<p>二〇〇 二〇〇 二〇〇 二〇〇 二〇〇</p>	<p>二〇〇 二〇〇 二〇〇 二〇〇 二〇〇</p>
---	--	--

1180名(20.7.10編成)

隊中(車動自)五第	隊中(車動自)四第	隊中(馬銃)隊大三第	隊中(馬銃)二第	隊中(馬銃)一第	部本隊
<p>中尉 福岡 國義 三小隊長 見士 足立 忠男</p>	<p>中尉 大泉 敬三 (戦死)</p>	<p>中尉 萩原 善助</p>	<p>中尉 角南 武夫 少尉 黒川 浩</p>	<p>中尉 岡崎 善海</p>	<p>副官 田中 隆 (戦死) 少尉 照井又三郎 三少尉 高橋定夫 大尉 藤本一男 中尉 有働龍治</p>
<p>戦死一〇名以上 九、四、主力は横道河子で 一〇、五、一部は合林谷で(夫々武装解除)</p>	<p>戦死約一〇名以上 主力は九、四横道河子で武装解除</p>		<p>一部は黒川少尉指揮のもとに仙洞附近に 戦死中、九、一五冷山で武装解除 中隊は東安に於て第三次初年兵(警備隊) 教育責任中(東安)船倉間に於て殆ど全亡 約六〇名)</p>	<p>一部中隊は指揮下にて七、八陣地構築中</p>	

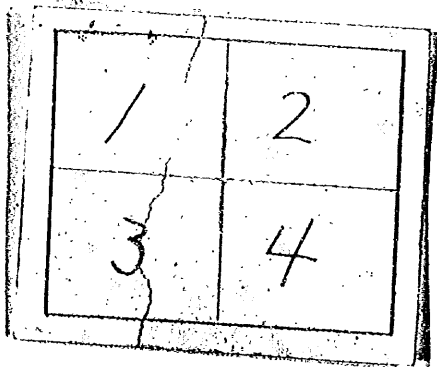
NO. 111 HORSMAN
 第一四八大隊を編成

隊中(車動自)五第	隊中(車動自)四第	隊中(馬銃)隊大三第	隊中(馬銃)二第	隊中(馬銃)一第	部 本 隊 務
中尉 福岡 國義 三小隊長 見士 足立 忠男	中尉 大泉 敬三 (戦死)	中尉 萩原 善助	中尉 角南 武夫 小隊長 少尉 黒川 浩	中尉 岡崎 善海	少佐 藤田 泰次 副官 田中 誠 (戦死) 少尉 黒井又三郎 主少尉 高橋定夫 器大尉 藤本一男 器中尉 有動剛治
戦死一〇名以上 九、四、主力は横道河子で、 一〇、一五一部は吉林谷で(夫々武装解除)	戦死約一〇名以上 主力は九、四横道河子で武装解除		一部は黒川少尉指揮のもとに仙洞沓近郷原 嶺途中、九、一五谷山で武装解除 中隊長は軍医に於て終戦次初年兵(戦死) 隊務主任中(軍医)が尋問に於て殆ど逃亡 約六〇名)	一部中隊長指揮下の七風陣地構築中	

二〇一、一、二〇
七、
第一三八六隊を編成

カ
グ
フ
ツ
テ
ヤ
イ
ル
ク
ィ
ツ
ク

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

1310

第五軍第一三五師團部 隊名 第一三五師團兵器勤務隊

通稱號 真心二五二六二

郵便所名

全般概要		二〇、八、一〇東安田渡、 任丹江河向、 先鋒の進路以下三五名は列 軍司令部中、為時近にて 満軍の攻撃により殆んど全 滅したらしむ(生存者一、 三名) 八、一三、三本軍曹以下約 一〇名列軍司令部中満軍の 攻撃に合ひ殆んど全滅した らしむ 八、一四、東安を攻撃せし 自動車に依り約五〇は約五 より戦車隊と共に行動し古 城鎮に於て八、一五、ソ、 軍戦車と交戦、隊長戦死致 否大なる模様	
轉入	轉出	員入制編	別除
十九年以降	十九年以降	112名 (20.7.10編成)	
隊長名		約85	
(内は先代を示す)		安東	
大尉 多田 喜二		安東	
戦時	平時	駐屯地	
約85		安東	
		安東	
		古城鎮	
戦闘間の状況及損耗		終戦後の人員變動	
作業大隊より		入ソ入員	
入ソ迄の變動		隊別計	
二〇、九、一〇海林で第一 四三大隊			
満洲残留		收	
		收	

團部隊名 第一三五師團兵器勤務隊

通稱號 真心二五二六二

郵便所名

出降	人員制編	112名(20.7.10編成)
隊別	隊長名 (内は先代を示す) 大尉 多田 喜一	
戦時人員	約85	
駐屯地	平時 安東	
	戦時 安東 鎮城古	
戦闘間の状況及損耗		
終戦後の人員變動		
作業大隊より入「ソ」迄の變動	二〇、九、一〇迄は第一 四三大隊	
入「ソ」人員	除別計	
滿洲殘留		
收容所	收容所名	
所屬人員	死亡	
歸還人員	滿洲より領計	
狀況不明者數		

		<p>八、一四、治安を維持せし 自衛隊に依る約五〇は警察 より編成隊の共六有聯し主 給與に於て六、一五「ソ」 編成隊と交際、得、以て死傷 者大なる警察</p>
	112名 (20.7.10編成)	
		約85
		書 名
		書 名
		三〇 三六 三九

11月10日

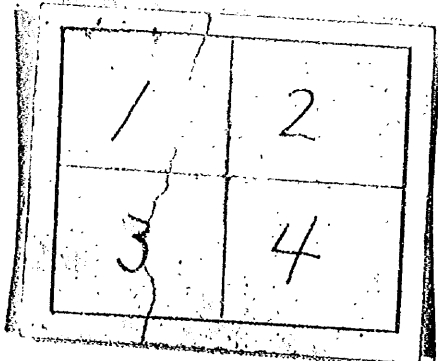
約85

人数

人数

1048801, N. J. 01

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

1313
1313
1314

第五軍第一三五師團部隊名第一三五師團衛生隊

通稱 誠心二五二六三

郵便所名

全般概要	轉入	轉出	員数	隊名	隊長名 (内は先代を示す)	職別	駐屯地 安東	戦闘中の状況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より 入ッ返の變動	入ッ人員 除別計	滿洲残留	收
1000名(20.8.10編成)													

1000名(20.8.10編成)

員人編編

別 隊

隊長名
()内は先代を不示

職人
職員

駐屯地
平時
戦時

戦闘間の状況及損耗

終戦後の人員變動

作業大隊より
入「ソ」迄の變動

入「ソ」人員
隊別計

滿洲残留

收容所名

所入
死亡

滿洲より
歸還人員計

者数
状況不明

部隊名 第一三五師團衛生隊

通稱 真心二五二六三

郵便所名

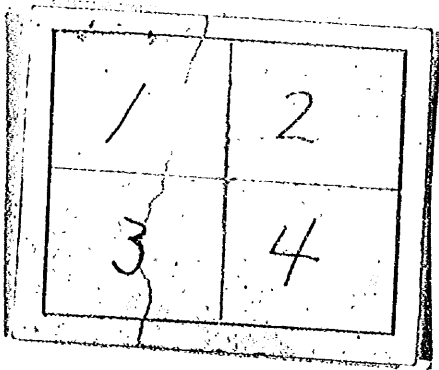
1000名(20.8.10編成)

表

1000名(20.8.10編成)

安 哀

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

1318
1319
1320

全般概要		第五軍第一二五師團部隊名		第一二五師團第一野戦病院		通稱 眞心二五二六四		郵便所名	
轉入 十九年以降		轉出 十九年以降		人員編制		別隊		隊長名 (内は先代を示す)	
300名(20.8.10編成)									
				戦時 人員		駐屯地		戦闘間の状況及損耗	
				平時		安東		終戦後の人員變動	
								作業大隊より 入ソ迄の變動	
				隊別計		入ソ人員		滿洲殘留	
								收容	

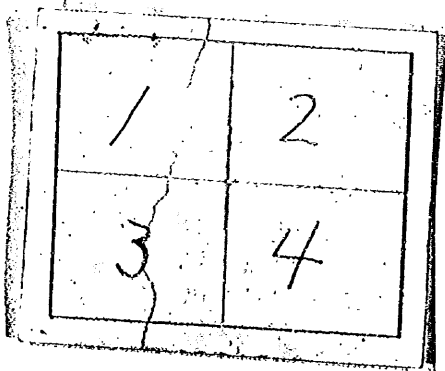
部隊名 第一三五師團第一野戦病院
 通稱 眞心二五二六四
 郵便所名

員入編編	
別 隊	
()内は先代を示す 隊長名	
時 間	開 人
安 東	駐 屯 地
時 間	時 間
戦闘間の状況及損耗	
終戦後の人員變動	
作業大隊より 入ソノ返の變動	
隊別	入ソノ人員
計	
満洲殘留	
収容所名	収容所
員所	
死亡	
より満洲	歸還人員
より領	
計	
者	状況不明
数	

300名(20.8-10編成)

安 3

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

1919
1920
1921
1922

第五軍第一三五師團部隊名第一三五師團第四野戰病院
通稱號 真心二五二六五
郵便所名

全般概要	轉入	轉出	員人調綴	別隊	隊長名 ()内は先代を示す	關人 職員	駐屯地	戰時	戰鬥間の狀況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より 入「ソ」迄の變動	入「ソ」人員 隊別計	滿洲殘留	收容
	十九年以降	十九年以降	350名 (20.8.10編成)											

名 第一三五師團第四野戰病院

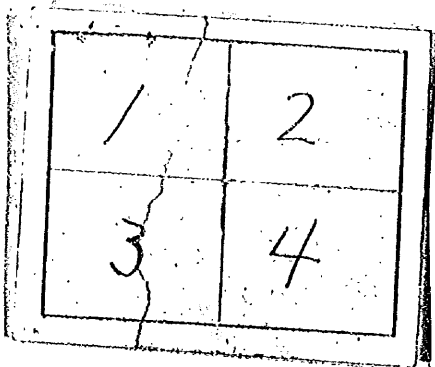
通稱號 真心二五二六五

郵便所名

隊長名		（内は先代を不示す）	
戦時	戦時	戦時	戦時
駐屯地	駐屯地	駐屯地	駐屯地
戦闘間の状況及損耗			
終戦後の人員變動			
作業大隊より入ソ返の變動			
隊別	計	入ソ人員	満洲殘留
收容所名	收容所名	收容所名	收容所名
人員	人員	人員	人員
死亡	死亡	死亡	死亡
満洲より領	満洲より領	満洲より領	満洲より領
計	計	計	計
者	者	者	者
数	数	数	数

350名 (20.8.10編成)

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

第五軍第一三五師團部隊名 第一三五師團病馬廠

通稱號 真心二五二六六

郵便所名

全般概要	轉入	轉出	人員組織	隊長名	開入人員	駐屯地	戰鬥間の状況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より入ソの變動	隊別計	滿洲殘留
二〇、八、一〇、永安、林口に於て三發、	第一三五師團各隊より抽出	十九年以降	人員組織	()内は先代を示す 獸醫中尉 坂井與佐吉	開入人員 時員	安東 口林					
八、一、一、林口部隊の一部は七星地区の未定成隊地を管轄		十九年以降	約119名 (20.7.10編成)								
八、中甸、一部は牡丹江地区に轉送各部隊と編成或は河津道河子山中を經て、冷山(九、一)一冷山南方一〇新白河部落(九、六)一小白山脈一蛟河縣青背村(一〇下甸)を經て、吉林省通榆縣自營區に入つて武裝部隊(約五〇名)、局地で三ヶ所に分散す(將校下士以下分離さる)											
一、二八、華甸市に「ソ」兵の混入せる共產黨侵入せるため自營區と共に新京に南へ途中、楡城子で八路軍と交戦											
二、二、一六、新京に於て自營區は「ソ」軍に依り武裝解除さる											
二〇、八、一〇、主力と共に林口に向つた千葉實長以下三〇名の馬隊部隊は主力に連れて錦州街道を行軍中「ソ」軍の襲撃を受け、馬隊に若干の損害あり、人員は散らす											
千葉實長以下一五名は錦州河子山中に於て本隊と合流地は不明											
第二〇軍防務隊の虎林分廠の見士以下二〇名、横道河子迄、自隊主力と行動を共にす											
坂井與佐吉、二〇、八、一〇、永安、林口に於て三發、											
坂井與佐吉、二〇、八、一〇、永安、林口に於て三發、											

部隊名 第一三五師團病馬廠
 通稱 眞心二五二六六

郵便所名

		員人別	隊
		別	隊
		隊長名	(内は先代を示す)
		獣醫中尉	坂井與佐吉
約100		開人	駐屯地
	安東	平時	戦時
	口林	戦時	戦時
		戦闘間の状況及損耗	
		終戦後の人員變動	
		作業大隊より入ッ迄の變動	
		隊別	入ッ人員
		計	
		満洲残留	
		收容所名	イズベスト
		所人	
		死亡	
		満洲より	
		満洲より	
		計	
		者	状況不明
		数	

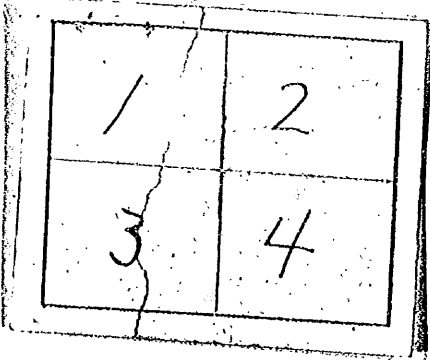
(一) 二八、華島港に上り、
 島の混入する兵隊を八人
 のために、五とせしめ、松本に
 向ふ途中、松城子で八路軍
 と交戦。
 (二) 二二、二六、新東に於
 ては警備は「ソ」軍に依り
 監視解除せし。
 (三) 二〇、八、一〇、主力と示
 した林口に向つた千葉警備隊以
 下三〇名の馬鹿部隊は主力
 に連れて、鶴巻街道を行軍す
 二ノ一家集の橋を渡り、
 馬鹿に若干の損害を受け、人
 員を散らす。
 千葉警備隊以下一五名、横道村
 子山中に於て本隊と合流他
 は不明。
 第二〇軍防殺隊の虎林分
 隊の見士以下二〇名、街道
 村子に、部隊主力と行動を
 共にす。
 (四) 二八、四、二二、八、ロウ、
 スタに移送。
 坂井中尉は八空軍に送付さ
 れて、ルンペンに送付される。

119名 (20.7.10編成)

約100

約100

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

330

第五軍第一二三五師團部隊名第一二三五師團防疫給水部

通稱號 眞心二五二六七

郵便所名

全般概要		轉入		轉出		員入割編		別隊		隊長名 ()内は先代を示す 醫大尉 齋藤		戦時 人員		駐屯地		戦闘間の状況及損耗		終戦後の人員變動		作業大隊より 入ソ返の變動		隊別 計		入ソ人員		満洲 残留		収容	
		十九年以降		十九年以降								安東																	
200名(20.8.10編成)																													

200名(20.8.10編成)	員人制編
	別 隊
醫大尉 齋藤	隊長名 ()内は先代を示す
	戦 闘 人 時 員
安 東	駐 屯 地 平 時 戦 時
	戦 闘 間 の 状 況 及 損 耗
	終 戦 後 の 人 員 変 動
	作 業 大 隊 以 外 入 ソ 迄 の 変 動
	入 ソ 人 員 隊 別 計
	滿 洲 残 留
	收 容 所 名
	所 入 者
	死 亡 者
	滿 洲 ソ 領 以 外 へ 送 還 人 員 計
	狀 況 不 明 者 数

部隊名 第一三五師團防疫給水部

通稱 眞心二五二六七

郵便所名

200名(20.8.10編成)

三六六
三六六

安 末

